

御室仁和寺は真言密乗の靈地なり。はじめ光孝天皇の御願として、仁和四年八月にいとなみ給ふ、代々法親王の御

法務にて、御門跡と称し給ふこと此寺にはじまりけるとかや。御室と号するは宇多天皇御出家の後、延喜元年十二月に

御室を此所に建させ給ふゆゑなり。又承平の御門も天曆六年御出家ありて、此所にうつり給へり。

金堂の本尊は阿弥陀仏、觀音、勢至、脇士とし給ふ。觀音院には千手觀世音た、せ給ふ。祖師堂は弘法大師自作の像、

脇壇には寛平法皇の宸影を安ず。五重塔、九所明神、十二権現、経藏、閼伽井、下乗の立石は藤木甲斐が筆とかや。夫

当山は佳境にして、むかしより桜多し、山嶽近ければつねにあらしはげしく、枝葉もまれて樹高からず、屈曲ためたる

が如し、弥生の御影向は猶更、花の盛には都鄙の貴賤春の錦を争ひ、幕引はへ、虞松が酒にふし、李白が恨は長繩を以

て西飛の白日を繋ぐ事を得んとは、春色の風客花にめで、日ををしむと同じ論なり。